

1 校訓 英知 誠実 自律

2 教育目標

- (1) 自ら学ぶ生徒 (知)
- (2) 思いやりのある生徒 (徳)
- (3) 心身を鍛える生徒 (体)

|   |
|---|
| チャンス    チェンジ    チャレンジ<br>機会を捉え    新たな気持ちで    挑戦する |
|---|

3 努力目標

- (1) めあてをもって学習に励もう (確かな学力の保証)
- (2) 相手の気持ちを考えて行動しよう (思いやりの心の育成)
- (3) 健康づくりに励もう (たくましく生きるための体づくり)

4 学校目標

周囲と協調し、自主的に粘り強く取り組む生徒の育成

5 重点施策

- ・「確かな学力」を身に付けさせるための授業改善の推進 (授業づくり)
- ・体験活動を通した望ましい人間関係の構築 (絆づくり)
- ・生徒一人一人の活動する場、認められる場の充実 (居場所づくり)
- ・安全・安心な学びの場の実現 (危機管理)
- ・保護者・地域住民との連携・協働の推進 (情報発信)

6 学校経営の方針

中学校の三年間は、子どもが思春期に入り自我に目覚め、人格の形成と社会的自立の実現に向けた人生の土台作りを始める大切な時期である。たくましく人生を歩むことのできる、知・徳・体の調和の取れた人間性豊かな生徒を育成するため、地域学校連携協議会（コミュニティ・スクール）と連携し、地域の特色、生徒の実態、保護者・地域の願いを的確に把握し、「魅力ある学校づくり」の理念を踏まえ「授業づくり・絆づくり・居場所づくり」の視点に立って、危機管理と情報発信を確実にしながら、地域に貢献できる人材の育成を目指した教育活動を展開する。また、青森県教育委員会、八戸市教育委員会の学校教育指導の方針と重点に基づき、生徒・保護者・地域との信頼関係を基盤とした学校経営を推進する。

7 教師の基本姿勢

- (1) いのち最優先の教育  
生徒の命を最優先とした教育を行う。
- (2) 信頼関係の構築  
誠実かつ丁寧な態度と対応で、生徒・保護者・地域との信頼関係構築に努める。
- (3) 保護者・地域との協働の推進  
保護者・地域の学校や子どもの育成に対する願いを的確に捉え、地域の特色や資源を生かした教育活動を展開する。
- (4) 同僚性の発揮  
生徒にとってよりよい教育を実現できるよう、一人一人が得意を生かしながら協働することを心がけ、チー

ム一丸となって学校目標の達成に努める。

(5) 指導力の向上

研修の機会を捉え、指導力の向上に努める。

< 笑顔で 元気に さわやかに 明治中 >

## 8 令和7年度の実践

(1) 「確かな学力」を身に付けさせるための授業改善の推進（授業づくり）

①生徒が問いをもって取り組む問題解決的な学習の推進（校内研究3／3年目）

ア 生徒が思考の変容を自覚しながら課題解決に向かう授業展開の工夫に取り組む。

イ 特別支援教育の視点を生かした授業づくりに取り組む。

②校内人材を活用した指導の充実

ア TTの実施により、生徒の理解の状況の応じた指導を行う。

イ 特別支援アシスタントと連携して、個に応じた指導の充実を図る。

③研修の推進

ア 教師相互に授業参観を行い、授業力の向上に努める。

イ 授業に関するアンケート等を活用し、授業改善に努める。

(2) 体験活動を通した望ましい人間関係の構築（絆づくり）

①安心して生活できる学級づくり

生徒同士、生徒と教師の信頼関係を基盤とした、安心して学習や活動に取り組める学級づくりを進める。

②体験活動の充実

ア 発達の段階に応じた体験活動を取り入れ、生徒の心身の成長を図る。

イ 協働的な体験を通して人間関係の構築を進める。

③相談体制の整備

ア アンケート調査や面談等を活用し、生徒の状況の把握に努める。

イ スクールカウンセラー等を活用した相談体制を整える。

(3) 生徒一人一人の活動する場、認められる場の充実（居場所づくり）

①活動する場・認められる場の充実

授業や学級生活・行事において、生徒が目標をもって取り組めるよう計画的に指導する。

②話し合い活動の充実

学級会活動、生徒会活動等を通して、集団生活向上の視点で合意形成を行う体験を充実させる。

③自己肯定感、自己効力感、自己有用感を育成する取組の工夫

諸活動における生徒一人一人の目標設定、取組、振り返りを適切に支援し、主体的な取組の実現を図る。

(4) 安全・安心な学びの場の実現（危機管理）

①施設・設備の定期点検による安全な教育環境の構築

毎月の安全点検を基盤に、施設設備を安全に使用・活用できるようにする。

②非常災害発生時の迅速な行動の確立

危機管理マニュアルの共有に努め、集団下校訓練、引き渡し訓練、避難訓練等を通して、事前の危機管理意識を高め、非常時の対応力の向上に努める。

(5) 保護者・地域住民との連携・協働の推進（情報発信）

①保護者・地域との情報共有

保護者連絡用アプリ、安全情報配信システムを活用して、学校から発出する文書や情報が、保護者・地域と共有されるよう務める。

②地域学校連携協議会（コミュニティ・スクール）との協働による教育活動の充実を図る。

地域密着型教育コーディネーターと連携し、地域の人材や資源を活用した教育活動の展開を図る。